

～薩摩の「薩摩琵琶製作」の復活を目指して～

琵琶の起源は、ペルシャの楽器「バルバット」にあり、西方に伝わったギターと同源であると言われています。琵琶は欽明天皇の時代（509～571）に仏教などと共に中国から伝来し、正倉院には五絃五柱や四絃五柱の琵琶があります。

琵琶には雅楽に用いる楽琵琶、平家物語の語りに使用される平家琵琶、仏教儀式に使用された盲僧琵琶などがあります。

薩摩琵琶は、源頼朝の命によって島津忠久が薩摩国・大隅・日向国の守護職として任じられた際に、京都・相坂山の妙音寺常楽院第十九代宝山検校を伴って下向し、島津家の祈祷僧として日置・中島常楽院を建立したことに始まります。島津中興の祖と言われる島津日新公は、歴代盲僧の中でも琵琶演奏に傑出した第三十一代淵脇寿長院に、盲僧琵琶(四絃六柱)の柱を減じて、四絃四柱にし、それまでの祭具として利用されていた琵琶ではなく、弾奏者の技法で自在に妙音を織りなす楽器として薩摩琵琶を確立するとともに、青少年の徳育情操陶冶・土風の鼓舞など人士の文武奨励・教育等に活用することを図りました。薩摩の郷中制度の中では、武人のたしなみとして「天吹」と言う笛とともに、弾奏・伝承され、戦国の世の鎮魂歌として、また、死生観・道徳観など後世の人々に生き方を伝え偲び、また鼓舞するものとして、薩摩琵琶の何とも言い難い妙音を響かせて参りました。薩摩の薩摩人だけの薩摩琵琶でありましたが、明治維新を契機とした薩摩人の活躍の中で、全国に知られ、明治・大正・昭和(戦前)に隆盛期を迎えました。当時は、薩摩琵琶を製作する方も多かったのですが、先の大戦で多くの弾奏家・製作者を失い、現在に至っております。近年鹿児島での最後の薩摩琵琶製作者が逝去され、現在は、鹿児島に薩摩琵琶を製作される方がいない状況となっております。しかし、およそ 500 年の間伝承されて来た郷土の楽器が、鹿児島で製作出来ない現状は非常に残念でなりません。過去に於いては個人的に製作された方もありましたが、材料の調達や道具の整備、製作技術の修練、音響楽器としての評価など、個人の資力で行うには限度があるように思われます。

永続的に薩摩琵琶の製作を伝承してゆくことが必要であり、薩摩琵琶を愛好する人々の有志の中から現在の状況を憂い、「薩摩の薩摩琵琶を薩摩人の手で製作できるようにしたい」との思いが沸々と湧いてまいりました。薩摩の伝統を守るグループ活動が必要となっております。この思いを結集すべく、「薩摩琵琶制作研究会」を設立致しました。琵琶を一緒に作りませんか！ 県民の皆様の御参加をお待ちしています。

製作拠点：■楓工房（風間信秀）

鹿児島市石谷町 1468

TEL・FAX：099-278-1558

県立松陽高校美術科木工芸講師

鹿児島県美術協会会員

指宿なのはな館木工講師

■かごしま文化工芸村（佐久間栄一）

鹿児島市西別府町 2758

TEL：099-281-7151 FAX099-281-7215

かごしま文化工芸村専門講師

お問合せ：■薩摩琵琶製作研究会

鹿児島市草牟田 2 の 5 8 の 3

鹿児島神社内 山下剛様方

TEL：099-222-9380

FAX：099-222-9385

事務局・濱田眞民・椎原恒介

■鹿児島大学学術研究院法文教育学域

教育学系技術専修

木材加工研究室 教授 寺床勝也

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-20-6

TEL:099-285-7872（研究室直通）

Email:teratoko@edu.kagoshima-u.ac.jp